

2 最新モバイル活用事例に学ぶ

**効率アップは当たり前？
新しいサービスの開発も
モバイル活用から**



—MCPC award 2010 受賞企業の動向—

モバイルコンピューティング推進コンソーシアム(MCPC)では、モバイルシステムの活用で成果を上げている企業や自治体・団体を表彰する「MCPC award」を実施している。

2010年の受賞者とその内容に、活用傾向を見ることが出来る。

○グランプリは県警！

2010年のグランプリは岡山県警察本部の「警察統合情報システム」。岡山県警では、盗難や事件などの情報を本部と現場でリアルタイムに共有するために携帯電話を活用。初動警察活動の迅速化やストーカー対策など、地域社会の安全・安心維持に効果を上げていく。当初は通信時のセキュリティが懸念されたが、専用線に近いレベルのセキュリティが確保され導入に至ったという。

警察のような堅いイメージの官公庁が携帯電話の活用で業務改革を行っている事実は、モバイルが社会インフラとして浸透してきていることを実感させる。

○モバイルII電話機とは限らない

モバイルというと携帯電話やスマートフォンなど「電話のできる機器」をまず思い浮かべるが、通話機能がない通信モジュールによって、機械と機械が通信する仕組み(マシンコミュニケーション)も利用が広がっている。

例えば、奨励賞を受賞した京王電鉄では、シニアセキュリティサービスを開発。高齢者宅にSOSボタンを設置し、緊急通報や安全確認を行えるようにした。この際、端末のセンサー機能を用いて1日動きがないと家族に自動的に安全確認メールが送られる仕組みも取り入れている。

また、特別賞を受賞した工務用保安用品レンタル業のセフテックでは、人が容易に入れない高速道路の電光標示を遠隔操作で切り替

「MCPC award 2010」各賞の受賞企業

グランプリ (大賞)	岡山県警察本部 (岡山県岡山市)	警察統合情報システム (PIT システム)
総務大臣賞		
モバイルパブリック賞		
審査委員長 特別賞	ロータス九州株式会社 (福岡県福岡市)	自動車整備用モバイルツール [LOSSO-9/EagleCatch]
モバイル中小企業賞		
モバイルテクノロジー賞	富士通株式会社 (東京都港区)	[CLEARSURE] によるリモート消去 PC システム
モバイルビジネス賞	日本貨物鉄道株式会社 (東京都千代田区)	運転支援システム [PRANETS]
モバイルパブリック賞	日本コカ・コーラ株式会社 (東京都渋谷区)	地域貢献型自販機システム
特別賞 (50 音順)	青山学院大学 (神奈川県相模原市)	スマートフォンを活用した資格取得支援
	近畿労働金庫 (大阪府大阪市)	onefone によるグループウェアと内線システム連携
	セフテック株式会社 (東京都文京区)	LED 情報板遠隔操作ユニット [SiLED システム]
	株式会社東京白ゆり會 (東京都台東区)	東京白ゆり會 販売管理システム
	株式会社沖電気カスタマドテック (東京都江東区)	保守員業務支援システム [eスマート CE システム]
	河津町 PTA 連絡協議会 (静岡県賀茂郡)	FairCast-子ども安全連絡網
	ギアヌーヴ株式会社 (東京都港区)	現場画像一括管理システム [GENBA.net]
	京王電鉄株式会社 (東京都新宿区)	SOS ボタンを使った見守りシステム [シニアセキュリティサービ]
奨励賞 (50 音順)	中央電力株式会社 (大阪府大阪市)	電力検針システム
	株式会社東電ホームサービス (東京都港区)	お客さまサービスリーダー IT 支援システム
	株式会社ハッピーリス (東京都大田区)	動物用健康管理モバイルシステム
	株式会社ビー・アングル (広島県広島市)	スマートフォンによる店舗情報リアルタイムシステム

「成功したモバイル活用事例 2010」

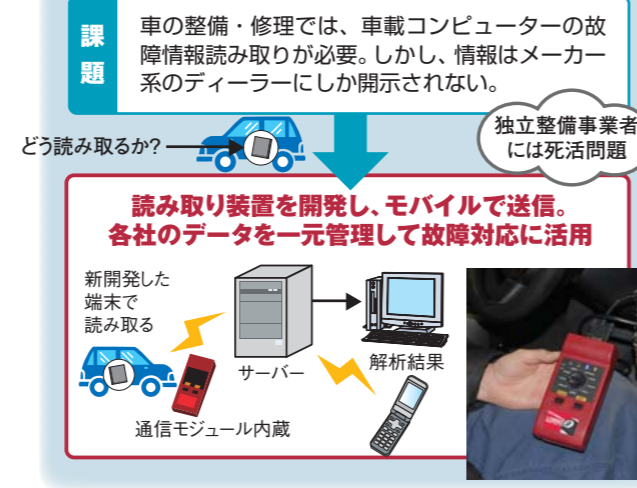
MCPCより「MCPC award 2010」の事例を紹介した冊子が刊行された。各事例の詳細な内容が掲載されている。
http://www.mcpc-jp.org/

モバイルで新しいサービスを生む!
(MCPC award 2010受賞企業のシステム内容より)

モバイルで業界の課題を越える

独立系自動車整備事業者に開示されなかった自動車のコンピューター情報。独自ツールの開発で共有財産に

—ロータス九州



えられるシステムを開発。標示板と通信サービスをセットにしてレンタルしている。電光標示板には通信モジュールが取り付けられ、交通管理側からの指示にしたがって標示文が切り替わる。

○モバイルを組み込んだ商品開発

セフテックはIT関係の企業ではないが、顧客が求めるサービスを考えていくなかで、工務用保安用品にモバイル通信を加えることで新商品が開発できると気づいた。

このように、モバイルをプラスして新ビジネスを開発したり、従来の枠組みを超える事例が出てきている。

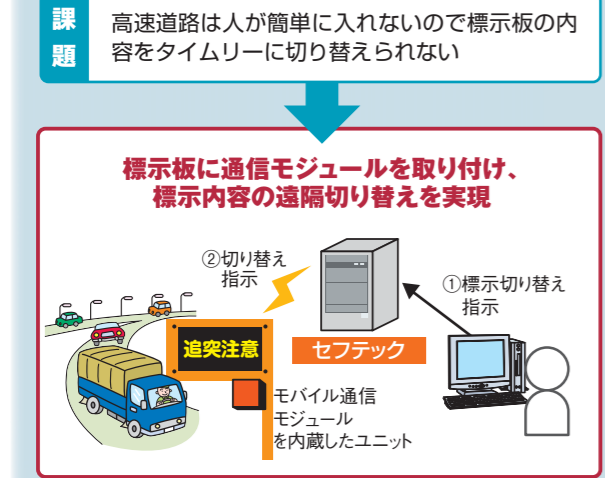
審査委員長特別賞・モバイル中小企業賞を受賞したロータス九州もその1社。業界の慣習による中小自動車整備事業者の大きな課題に挑み、活路を開いた。

自動車修理には車載コンピューター情報の読み取りが必要だが、詳細情報はメーカー系のディーラーにしか開示されず、読み取りツールも高価だった。そこでロータス九州では、独自の読み取りツールを開発しモバイル通信でサーバーに情報を蓄積。それを解析して車載コンピューターの内容を返す仕組みを開発した。多様な車種の修理に素早く対応できるようにしたほか、蓄積されたデータを使った新しい顧客サービスも展開しているという。

モバイルで商品開発

工務用保安用品レンタル会社が電光標示システムを開発

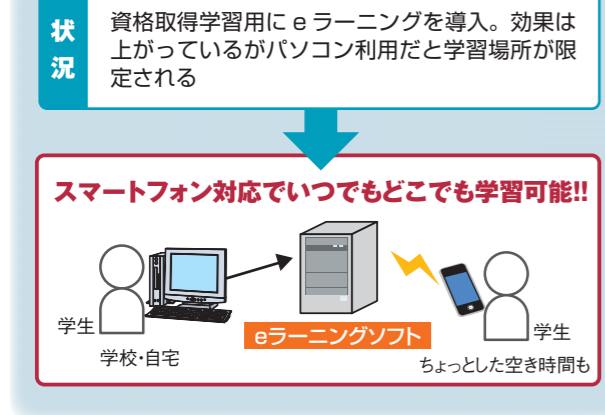
—セフテック



モバイルで人材育成

学習機会を増やすため、学生にスマートフォンを貸与

—青山学院大学



顧客の要望に応えたい、もっとサービスを強化したい、課題を超えてその先にいきたい——「今」を飛び越すためのツールとしてモバイルは存在感を示している。